

「市史跡『名瀬小学校敷地内の石段』および「泉芳朗詩碑」を用いた取組」

1 学校名

奄美市立名瀬小学校

2 学年・人数

小学5年生・6年生（134人）

3 日時・場所

(1) 学習会等の日時・場所

平成27年4月6日（月）～現在まで毎日

※ 平成20年前後より本取組は開始されたようである。

(2) 発表の日時・場所

平成27年12月25日（金）日本復帰記念の集い 名瀬小学校体育館

4 活用に取り組んでいる史跡の名称・時代・特徴について

(1) 名称・時代

市史跡「名瀬小学校敷地内の石段」 昭和時代（平成25年 市史跡に指定）

泉芳朗詩碑 昭和時代

(2) 特徴

第二次大戦後、奄美群島が米国の統治下に置かれたとき、本校校庭で奄美群島の日本本土復帰に向けた決起集会が行われ、復帰運動の父と呼ばれた泉芳朗氏が大勢の民衆に向かって復帰を呼びかけて復帰運動が始まった。

校舎は改築されて周辺の様子も様変わりはしたが、石段だけは当時の姿をそのまま残し、先人の日本復帰への情熱と奄美群島民の団結の心、そして、何が何でも復帰運動をやり抜くのだというストゴレ精神を今に伝えている。

泉芳朗詩碑は、泉芳朗氏の詩「断食悲願」を記した詩碑で、おがみ山山頂にある。

5 保存会や地域との連携の具体

日本復帰記念の集いは毎年実施されており、本年度は奄美市・奄美市教育委員会・潮鳴会（金久中学校日本復帰40周年記念演劇公演「潮鳴よ同胞の胸に響け」OB会）・奄美群島の日本復帰運動を伝承する会の4者が呼びかけて行われた。

実際に案内書が学校に来るのが11月中旬であったが、例年、本校の6年生が泉芳朗氏の詩「断食悲願」の朗読を会中にすることになっており、本年も同様に行われるとのことであったので、日本復帰の歌の練習や詩の暗唱など実際の準備は4月から行ってきた。

6 活用の取組の工夫した点

校長室前に泉芳朗詩碑の拓本を収めた額が掲げてある。4月にまずそれを6年生児童に見せて、奄美に住む我々にとって重要な意味を持つ詩であることを伝えて、毎年6年生はこれを暗唱することを伝えた。

「断食悲願」は長い詩であるので、4月から国語の学習を中心に実施する暗唱活動で毎日練習してきた。その際、活動で使用する暗唱詩文集の一番最初を「断食悲願」にする工夫を行い、すでに9月ごろにはほとんどの児童が暗唱を完了できた。

また、その朗読に向けての声出し練習の一環として、毎朝6年生が石段に整列し、5年生がそれに向かい合うように校庭に整列しての声出し・校歌の斉唱を行った。

「石段に立つ」ようにしていることに意味がある。本校の場合、身近に重要な史跡があるので、自然と毎日の活動に史跡活用が組み込まれ、児童が自然と史跡に対する思いを深められる。なお、朝の活動時に「石段に立つ」ことができるのは6年生の特権である。このことから、児童は石段に対して特別な思いを持たせる工夫を行った。

7 取組の様子（研究発表、創作劇等）



【毎朝の校歌斉唱】



【記念式典で断食悲願を朗読】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

児童生徒・・・「緊張した」等の感想が多かった。本土復帰を勝ち取った先人たちに対する思いと、その熱と団結力を受け継いでいかねばならないという重責がその言葉につながったのかもしれないと考えられる。

保存会等・・・今年も素晴らしい態度だったとお褒めの言葉をくださった。

教職員・・・日本復帰記念の集いは今後もあるだろうから、この取り組みは継続されると思われる。今後は、式典間際になって慌てないようにするために、学校内での引継ぎに努めたい。